



街をみんなで“nijiirō”に
その種を届けるニュースレター

にじのたね 2

多様な性のあり方を知る

にじいろ協働事業通信 Vol.2 2018.9.1



映画、トーク、コンサートなど、ひとつひとつに思いがこもった2日間でした

nijiirō news

せんだいレインボーDay560名参加

多様な性について伝えるイベント『せんだいレインボーDay』。7月7日(土)、8日(日)の2日間、エル・パーク仙台にて開催され、当事者、支援者、多様な性について知りたい人など、延べ560名もの方が参加しました。

どのコンテンツからも伝わってくるのは、生きることに真つぐな姿勢と純粹さ。自分らしく生きることの大切さを実感できました。「清貴 x We Are One Choirコンサート」では、当事者でありアーティストの清貴さんがステージを盛り上げ、来場者とともに会場がひとつになりました。知らない誰かの話ではなく、自分とみんなのありのままを大切にするということを、すべての来場者に気づかせ、勇気を与えてくれるイベントでした。

『OUT IN JAPAN 500人展』壁一面に当事者のポートレートが飾られました



… contents …

<nijiirō news>

せんだいレインボーDay報告

<nijiirō special>

学校と多様な性

<nijiirō thinking>

多様な性ととも成長すること





nijiiro special

学校と多様な性。日本国内の考え方や取り組みがどうなっているのかを知ろう

十分な知識を得て自分がどんな人間かが分かり、様々な人と関わり、より自分らしく育っていく…学校は、誰もがそんな当たり前の経験ができるようになっているのでしょうか？

子どもの権利条約 『4つの柱』

国連で採択され1990年に発効された「子どもの権利条約」。日本も1994年に批准し、国は子どもの権利を保障する責務を負うことになりました。



1 生きる権利

命を奪われない、病気やけがの治療が受けられるなど

2 育つ権利

教育を受け、休んだり遊んだり、自分らしく育つことができる

3 守られる権利

虐待(ぎゃくたい)や搾取(さくしゅ)などから守られる

4 参加する権利

自由に意思を表したり、自由な活動を行ったりできる

『オレは絶対にワタシじゃない』

遠藤まめた・著
〔はるか書房〕

一人ひとりが生きやすい社会を実現するため、特に若い世代の性的マイノリティを支える活動を行っているまめたさん。成長過程での苦悩や葛藤、活動とその成果を熱く語っています。



《権利に守られ自分らしく育っていける》

日本ではあまりなじみがないか、難しい印象の言葉ですが、“権利”は人が当たり前に育つ上でとても大切なこと。人は生まれながらに自ら育つ力を持っていますが、その力を発揮するには、否定されたり強要されたりせず、“権利”に守られていることが欠かせない要素になります。

《大人は子どもの“権利”を理解し守る存在》

「子どもの権利条約」は世界中で認められている条約です。子どもに関わる大人は子どもの権利についてよく理解し、ありのままの成長を尊重していくことが求められています。多様な性、多様な価値観などについて正しい知識がなかったり誤解していると、子どもの権利を侵害してしまうことにもなりかねません。すべての人に“権利”があることを忘れず、皆のちがいを受け入れていくようにしたいものです。

《性的マイノリティの子ども達の“権利”は守られている？》

性的マイノリティの割合は血液型のAB型と同じくらいで、クラスに2～3人いるとも言われますが、大人もその事実を知らず、存在を否定したりしがちです。当事者が一人で悩みを抱え、問題が深刻になってしまうこともあります。

《徐々に対応がなされるようになってきた多様な性》

「自殺総合対策大綱」(2012年)の改定時に「教職員の適切な理解を促進することが必要」とされ、性的マイノリティへの無理解や偏見に対処することが盛り込まれました。相談を受け止め、見守ることが求められています。残念ながら「学習指導要領」にはまだ盛り込まれておらず、正しい知識を得られるよう現場での工夫が必要です。

周囲の知識が不十分な中、当事者にも正しい情報が届かず、自分が受入れられると感じにくいのが現状です。



nijiiro topics



HOMEY (ホームイー)

悩みのある中高生であれば
誰でも参加出来ます！
(LGBTQ理解者の方も大歓迎！)

HOMEY(ホームイー)とは「気楽な、くつろいだ」という意味。東北のLGBTQ中高生が、気楽に集まって、くつろげるような場所を作りたいという思いで仙台市で活動している団体です。現在は月に一度、LGBTQの当事者が集まって話をしたり、ゲームをしたりする「交流会」を開催しています。

homey-touhoku.github.io/index.html



nijiiro thinking

知っておきたいこと、できることは？

多様な性と共に成長することについて考える

当事者かそうでないかは、一つの特徴。良いか悪いかなどを判断をして分けるものではありません。場面が変われば立場が入れ替わることもあります。ちがいを認め合い共に成長することを考えてみましょう。

マイノリティ

少数者、少数派を意味する言葉。多様な性では「性的マイノリティ」という表現で用いられる

マジョリティ

多数者、多数派を意味する言葉。多様な性では性的マイノリティの対義として用いられる

少数者や弱者などハンデを負っている人がマイノリティですが、それだけに留まらず「ふつう」と「特別」など、色分けで考えられてしまうことがあります。

ストレート・アライ

ストレートは異性愛者の意、アライはAlliance(同盟関係)の略



性的マイノリティ当事者ではないが、当事者が社会的に不利な立場に置かれていると感じ、支援する人々。



ダイバーシティ

多様性や相違点という意味がある言葉で、その違いを積極的に活かそうとする考え方。個々の存在を尊重する必要がある。

《ちがうことは良くないこと?》

LGBTって変だと、マイノリティは声を小さくさせられている、ちがいを主張できず、必要以上に「みんな一緒」と言い続けてしまう。そんな場面はありませんか？

全体の空気に合わせるよう強要することを「同調圧力」と言いますが、仕方なく合わせてしまい、自分の言葉を飲み込んでしまった経験は誰にもあると思います。これは性的マイノリティに限ったことではありませんね。ちがいを見つけて排除することははじめの時によくあることです。

《共感するアライ、共に学ぶ当事者》

“アライ”は当事者と共に行動しようとする人たち。マジョリティの中にも理解を深めようとする人もいます。聞こえなかった声に耳を傾け、「ふつう」から「ストレート」に、そして多様な性を生きる当事者の一人になっていきます。

《“ダイバーシティ”一人ひとりのちがいを強みに》

本来は、みんなちがっていてそれでよいはずですが、現状ではそう見えない社会となっており、ちがいを受け入れていく行動が必要です。よくわからないとしても、一緒にいて考え続けていく。ちがいを知って、活かし合っていこうという努力を続けるのが多様な性を共に生きる仲間です。ちがいに驚き、マイナスの感情が芽生えても、あいつは変だと決め付けず、ただ見守る。それだけでも大事なことです。

ちがいを受け入れた社会は、たくさんの声上がる社会になります。多彩な方法を思いついたり、今までにない方法で成果を上げていくこともできます。ちがいがあがるもの同士と一緒にいることで、その経験を共有することができます。そこから、自分自身もさらに成長していくことができるかもしれません。



よりそいホットライン

「よりそいホットライン」は、すべての人を「一人にしない」「社会から切り離さない」ことを目指して、24時間通話料無料で電話相談に取り組んでいます。電話ガイダンスに従って、相談内容を選べます。セクシュアルマイノリティ専門回線もあります(4番を選択してください)。

tel.0120-279-226

一緒に解決方法を探します。
専門の相談員がお待ちしていますので
一人で抱え込まずにお電話ください。



nijiiro information

コミュニティスペース『にじのひろば』



一緒にワイワイ話したり、書籍やパンフレットなどの情報に触れたり、多様な性のあり方ってどういうこと？と勉強してみたり、多様な性に触れながら、思い思いの時間を過ごしてみてください。性的マイノリティの人も、そうじゃない人も、決めたくない人も、わからない人も、皆さんお待ちしております。

「LGBTについて、報道されることも多くなっているけど、そもそも多様な性のあり方ってどういうことなんだろう？自分とどう関わるのかなのかよくわからない」。そのように感じている人も多いのではないのでしょうか？

性のあり方はすべての人に関わることで、一人ひとりが違った性を生きています。性的マイノリティと呼ばれる人は特別な存在ではなく、ごくふつうの市民のひとりなのです。

にじいろ協働事業ではこのことが実感できる場として、コミュニティスペース『にじのひろば』を開設します。多様な性のあり方の情報に触れ、参加者同士で話し合える場があれば、きっと身近に感じられることと思います。月に一回日曜の午後、多様な性のことを一緒に考えてみませんか？

《多様な性のミニ講座&にじいろライフヒストリー》

1回目 14:30~15:00 2回目 16:00~16:30

当事者の話も聞きながら、多様な性についてコンパクトに知ることができる時間です。

安心できる場です

- ・本名でなくても、呼んでほしい名前を決めておきましょう。
- ・自分のことは話しても話さなくても大丈夫です。
- ・他の人のプライバシーを守りましょう。自分も守られます。

自分のペースで

- ・質問されても言いたくないことは言わなくて大丈夫です。
- ・相談したいことがあればスタッフに声をかけて下さい。
- ・互いの発言を受け止めあい、否定されない時間にしましょう。

開催日:毎月第4日曜日

時間:13:30~17:30

9月23日、10月28日、11月25日、12月23日、

1月27日、2月24日、3月24日

会場:エル・パーク仙台 5階/創作アトリエ

参加費:無料 開催時間内は出入り自由です

多様な性のあり方の理解と課題の可視化について 多様な協働の場を創出する事業 ~にじいろ協働事業~

市民の一人ひとりが「多様な性」を自分事としてとらえられることを目的として「にじのたね」「にじのひろば」「にじいろスピーカー派遣」と「せんだいレインボーDay」の4つの事業を展開しています。

東北HIVコミュニケーションズ、市民有志、仙台市が「にじいろキャンパスSENDAI」を構成して推進します。

にじいろキャンパスSENDAI

(東北HIVコミュニケーションズ、性的マイノリティもそうじゃない人も含む市民有志、仙台市で構成)

事務局 〒983-0836 仙台市宮城野区幸町4-7-2
みやぎのいのちと人権リソースセンター内
東北HIVコミュニケーションズ
TEL/FAX 022-298-8532
[E-MAIL] office@sendai-nijiiro.org
[HP] http://sendai-nijiiro.org



学校の問題、社会の問題など、想像以上に国内は生きづらさがあると実感しました。いのちの重さは変わらないはずなのに、差別を受けたり、否定されたりするのはおかしいことです。一部の人だけが不利益な状況が実際にあることを知ったり、差別を受ける人たちの思いを理解する必要があったと感じました。

(編集部)

●ご意見、ご感想、質問などお寄せください●
にじいろキャンパス SENDAI / にじのたね係

発行 にじいろキャンパスSENDAI
発行日 2018年9月1日
デザイン・編集 トト・ライティング
発行部数 2000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗
市内外の男女共同参画センター